

Guatemala

[グアテマラ]

写真・文＝岡本 央 (写真家)

取材協力：日本ユニセフ協会

砕けた虹を抱いて



グアテマラでは、先住民の80パーセントが貧困層に属している。先住民が暮らすこの村では、貧しさのせいで十分な食事が取れないため、子どもが栄養不良になっている家庭が多い（トニカバン県ティエラ・ブランカ村）



グアテマラでの1日分の賃金は、アメリカでの1時間分の賃金にすぎない。低所得者たちは海外からの仕送りで家計を支えてきた。アメリカへ行く夢を持つ若者は多い



グアテマラの南部に位置するケツアルテナンゴは、19世紀、コーヒー豆の集積地として栄えた商業都市だ。市街にはヨーロッパ風の建築物が残り、その周辺の農村にはマヤ系先住民が多く住んでいる



農家の庭先に立つ十字架。グアテマラには熱心なキリスト教徒が多い



山の頂まで続くトウモロコシ畑。大地主制度が今も残るグアテマラでは、多くの農民が地主から土地を借りて耕している。収入の大半が借地代と肥料代に消え、いくら働いても貧しさから抜け出せないという

かつてグアテマラで最も豊かな文明を誇っていたマヤ系先住民。今、彼らの子孫が差別や貧困に苦しんでいる。スペインによる植民地時代、マヤ系先住民たちは自分たちの土地を奪われ、安い賃金での重労働を強いられることになった。この搾取と貧困が現在も続いているのだ。昨年、日本でも公開された話題となったグアテマラ映画、『火の山のマリア』（2015年／監督・脚本・ハイロ・ブスタマンテ）でも、厳しい現実と向き合う先住民の姿が描かれている。

グアテマラの総人口はおよそ1600万。その4割がマヤ系先住民で、うち8割が貧困層だという。社会の片隅へと追いやりられ、義務教育も基本的な保健医療サービスも受けられずにいる彼ら。この辛い状況から逃れるために彼らが見つけたのは、海外への出稼ぎだった。

現在、アメリカで働くグアテマラ人は約150万人。グアテマラ国民のほぼ10人に1人が、アメリカへの出稼ぎで家計を支えている計算になる。アメリカで働くことを夢見る若者も依然として多く、メキシコ経由で入国する不法移民が後を絶たないという。アメリカ側も、国境警備網をくぐり抜けて入国した不法移民を、低賃金で使える労働者として重宝してきた。しかし、新政権が誕生したアメリカでは、トランプ大統領が公約通りの厳格な移民政策を掲げ、動き始めている。メキシコ国境沿いに壁が建設されれば、メキシコ人だけでなく、メキシコを経由してアメリカへ渡っていたグアテマラの貧困者にとっても、アメリカへの道が閉ざされることになる。



小・中学校は義務教育だが、貧しくて学費が払えず、さらには家族のために働かなければならないため、中学校の就学率は5割だという。国に財政的余裕がなく、教育に回すお金がないため、国からの支援は少ない



初孫の誕生を楽しみにする女性と、母になる日を心待ちにするその娘。しかし、その笑顔の下に大きな悲しみを隠していた。家族の生活を支えるためにアメリカへ出稼ぎに行っていた母の夫が、亡くなったのだ。知らせが届いたのは2カ月前。これからどうしていいかわからないと、途方に暮れていた



先住民の多くが山岳地帯に住むが都会に出て働いている人も多い。男性は単純労働、女性はメイドの仕事に就くのが一般的だ (トニカバン県)



子どもたちの楽しみは、村にやってくるアイスクリーム屋さんだ

岡本 央 (おかもと さなか)

宮城県生まれ。写真家。「自然と風土に遊ぶ学ぶ世界の子どもたち」や日本の子ども「郷童」をライフワークとして撮り続けている。著書に『馬と遊び馬と走るモンゴルの大草原』(草土文化)、共著に『里山っ子が行く!』(農文協)、『ブータン 幸せの国の子どもたち』(東京書籍)他。



グアテマラ

グアテマラ滞在中にこんな話を聞いた。アメリカで確実に仕事をしたいなら、ブローカーにおよそ150万円を支払わなければならないそうだ。そのための借金の担保になっているのが土地であり、村全体をブローカーが担保として押さえている出稼ぎ村まで存在しているという話も聞いた。

夫が2カ月前に出稼ぎ先のアメリカで亡くなったという家族と出会った。トウモロコシ畑の片隅にある小さな家で、妻と娘の二人が生活していた。ハリケーンで壊れた家を建て直すために働くと言われて異国に渡った夫は、稼いだお金で家族のために自宅の台所を直し、次は家の周りの塀を修理してやると語っていたそうだ。一家は夫からの仕送りを頼りに生計をつないできた。先日、そんな優しい夫の死を報せる通知が家族の元に届いた。英語で記されていたため、家族は翻訳料として約8000円を支払ったが、そのまま返信が途切れ、夫の死因はまだまだわからないままだという。

国民の半分以上が貧困層に属しているグアテマラだが、意外にも中所得国に分類される。資産家のみを優遇する国の制度が格差を生み、多くの先住民が貧困から脱却できない社会を構築した。豊かな大地は、現在もグアテマラの基幹産業であるコーヒーやバナナを育み、この国に利益をもたらしている。しかし植民地からの解放後も大地主制度は残り、農民には土地が解放されてこなかった。地主から土地を借りて耕す小作農は、いつまでも豊かになれない。そのため、海外へ出稼ぎに向かい、その送金が生活を支えてきたという家庭も多かった。

トランプ大統領の政策が彼らをさらなる窮地に追い込むのではなく、彼らの貧困の真の理由に世界が目を向け、この国の社会構造を変えるきっかけになってほしいと思う。

伝統の女性の衣装といえば

ウィピル



腰機でウィピルの布を織る女性。日常の仕事の合間に、数カ月から半年ほどかけて一着を作る

今でも民族衣装を身に着ける人が少なくないグアテマラ。現地の女性たちと共に布小物を企画・製作して日本で販売しているilo itooの高

崎真理子さんは、「グアテマラの布の魅力は、色使いの鮮やかさと模様のバリエーションです。村ごとに受け継がれる伝統的な模様があり、かつてはその人の衣装を見れば、どの村の出身か分かったといえます」と話す。生命の樹やジャガーなど、マヤの伝統信仰に基づくモチーフはもちろん、太陽、山、星、鳥など身近にある自然を模した柄が多く使われる。素材は綿が中心だが、最近は化繊を使うこともある。

女性たちのスカートはコルテと呼ばれ、幅のある木の枠を使った機織り機（高機）を使い、^{たかばた} ^{かすり} 縞を使って模様を織り込む。一方、上着となるウィピルは、腰幅ほどの織り機の片端を固定して使う腰機で織った布を2〜3枚縫い合わせて作る。平織りをベースに、色糸を加えて模様を織り出す縫取織りが主流だが、いくつかの地域では刺しゅうで模様を描き出す。

「職人の間ではなく、母から娘へとウィピルの技術が伝えられ、日常的に使われていることに、グアテマラの人たちの文化に対する誇りを感じます」と話す高崎さん。長い歴史を経て、今も鮮やかに紡がれる布の魅力は尽きない。



一面に刺しゅうが施された結婚式用のウィピル。これだけ手の込んだものは儀式用だが、普段着用でもかなりの力作が多い

地球ギャラリー

グアテマラの文化を知ろう!

写真提供・取材協力：ilo itoo (<http://iloitoo.jp/>)

グアテマラの軽食といえば

チュチートス

トマトやジャガイモ、チョコレートなど、私たちにも親しみ深い中南米原産の食材。中でもマヤの神話で神々が人間の材料にしたとされるトウモロコシは、グアテマラの食卓に欠かせない。

チュチートスは、トウモロコシの粉を練ってトマトソースと肉を包み、蒸し上げたグアテマラの日常食。「中南米では、長距離の移動にはバスを使いますが、グアテマラではバスターミナルに止まると地元の女性たちがチュチートスを売りにくるので、それを長旅のお供

にと買って食べることも多いですね」と、中南米料理レストラン「ロミーナ」のシェフ、海老沢エミリオさんは話す。さっぱりとしたトウモロコシの生地にとマトソースと鶏肉が絡まって、とても食べやすい料理だ。

中南米を旅して文化の豊かさに魅せられ、それを日本に広めたいとお店を始めた海老沢さん。「ロミーナ」では普段グアテマラ料理は出していないが、ヘルシー料理をはじめとする中南米各地の食文化を楽しむことができる。



[RECIPE]

●材料

生地(5〜6個分)

マサ(トルティーヤ用コーンフラワー) 200g /
ラード(なければバター) 50g / 塩ひとつまみ
／鶏ガラスープ小さじ4分の1 / 水適量

フイリング

鶏むね肉(豚ロース肉でも可) 100g

[サルサ(トマトソース)]

トマト2個(水煮缶なら1缶) / ニンニク1かけ
／タマネギ(中サイズ)半分 / コンソメ1キューブ
／クミンパウダー1つまみ / 塩、コショウ、チリ
パウダー適宜

① 生地の材料を混ぜ、ハンバーグのタネくらいの硬さになるまで水を加えてこね、10分ほど寝かせる。

② サルサの材料をミキサーに掛けて鍋で煮込み、程よく煮詰まったら火からおろす。

③ 鶏肉を一口大に切り、①と絡める。

④ ③の生地でサルサと鶏肉を包み、トウモロコシの葉、もしくはアルミホイルでくるんで、強火で30分間蒸し上げる。

[SHOP INFORMATION]

ペルー・メキシコ・南米料理
ロミーナ

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-7-27

第43東京ビル2階 しんみち通り

TEL: 03-3226-6608

営業時間：月〜土曜日 17:00〜23:00

定休日：日曜・祝日

